

第12回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成21年3月23日（月）

午後2時～午後3時20分

場所：射水市役所新湊庁舎2階大会議室

事務局：ただいまから、第12回新湊みなとまちづくり戦略会議を開催いたします。

事務局：～出席アドバイザー、委員の紹介～

事務局：ありがとうございました。それでは、事務局を代表いたしまして、産業経済部長がごあいさつを申し上げます。

部長：委員の方々、アドバイザーの方々には、お忙しい中、今年度最後の戦略会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。さて、今年度も残すところ、あと1週間余りとなりました。新湊みなとまちづくり方策に掲げる大きな事業の一つである「川の駅」については、間もなく完成の運びとなり、4月26日のゴールデンウィーク前にはオープンの予定となっております。この方策のポイントの一つである「海王丸パークをはじめとした臨海部と中心市街地の連携による地域活性化」に大きく貢献するものと期待しているところです。今日の会議は、新湊みなとまちづくり方策の第一段階事業、いわゆる新湊大橋の完成までに予定されている事業の進捗状況について事務局からご報告させていただき、その後、このみなとまちづくり方策について研究された国立富山商船高等専門学校の学生さんに、意見発表をしていただき、また、委員長からのご提案いただきまして、今年度の戦略会議の締めくくりとしたいと考えております。方策に掲載された事業の実現に向けて、来年度も会議は継続してまいります。今後とも、ここにお集まりの各界各層の委員の方々が、それぞれの立場から、各事業の実現に向けた手法を検討していただき、この会議で意見をぶつけ合っていただく、そうした場になりますよう、ご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、開会に当たってのごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局： それでは議事に移りたいと思います。委員長お願いします。

委員長： どうもお忙しいところご苦勞様です。今日は今年度最後の会議になります。ぜひともいろいろなアイディアとか、こうしたらいいのではないかということを出していただきたいと。まさに戦略的にいろんな意見を出していただきたいと思います。それにはお金がかかりませんので、お金がないのが実態ですが、いろいろ知恵を出し合ってみなとまちづくりが進めばと思います。なお、今日の予定は1時間程度で、3時10分には終わりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。それでは早速始めさせていただきます。資料が行っていると思いますが、第1段階の事業の現況と今後の取り組み予定という、事務局が一覧表をとって年度末のひとつの区切りということで皆さんに知っておいていただきたいということで、整理されたものを見ながら事務局のほうからご説明をいただきたいと思います。

事務局： よろしく願いいたします。それでは第1段階の進捗状況と今後の取り組み予定ということで、プロジェクターを利用しながらご説明させていただきますと思います。先ほど部長のあいさつでもありましたとおり、第1段階の事業はみなとまちづくり方策の中に掲げてあります、新湊大橋の完成前までにできればいいと考えておる事業でございます。その事業は皆様のお手元にお配りしてございます、こういったホッチドめしてある紙、それが第1段階の事業と呼ばれるものです。その事業をどの場所でやるかということ、皆様のお手元にお配りしてございますA3の大きな紙、または方策の本をお持ちでしょうから、その方策の本で言いますと15ページになります。そちらのほうも一緒に見ていただきながら、私のほうで簡単に説明していきますのでよろしくお願い申し上げます。毎年度、昨年度末にもこうしたことで第1段階の事業がどこまで進んでいるのかということをやらせていただいておりますのでそういったこともあわせてご報告させていただきます。まず順に海王町からです。交通機能というところで、駐車場です。こちらのほうは新湊大橋の計画にあわせて21年度から詳細設計に着手できるよう国費補助の要望を行っておるということで、そういった回答を得ております。予定地としては新湊大橋のループ部分の真ん中になります。今後の取り組み予定につきましては、大橋の供用開始に向けて順次整備を行っていくということでございます。順に進めてまいります。次に、遊覧船と乗り場となっておりますが、こちらは海王丸パークの遊覧船の乗り場と遊覧船の運航についてのことになります。現在は内川のほうを運行しておりますし、富山新港のほうも運行しておるわけでございますが、今後は川の駅と

の連携も視野に入れて検討していきたいということでございます。続きまして、ポケットパークについてです。ポケットパークは新湊大橋の西側のエレベーターの入口につながる歩道の整備ということなのですが、こちらのほうにつきましても新湊大橋の供用開始に向けて順次整備を行っていくということでございます。次に、公共交通、コミュニティバスについてのことなのですが、こちらのほうは平成20年の5月20日から、新湊放生津線で海王丸パークに乗り入れていたのですが、さらに利便性をアップしようということで、市民病院とJR新湊大門駅とを接続する新湊大門線として新しく路線変更しています。今後毎年改善を図りながら利便性を向上させ、海王丸パークへの人の流れを作っていきたいと考えております。

交通の最後は道路整備についてです。中心市街地との一体化を図る道路整備ということですが、現在のところは未整備です。赤の線ですが、波返しの場所になりまして、波返しを撤去しながら新しい道路を造っていくことになります。こちらに関しましては、今後検討ということです。

続きまして、海王町の集客機能についてです。前回アウトレットモール等でお話させていただきましたが、こちらについてはいくつか施設を順に書いてあります。昨年度末にもみなさんに報告させていただきましたが、物販施設・レストラン・オープンカフェ・体験型宿泊施設がすべて一体になった施設がいいだろうということで、海王丸パークの既存の店舗経営者の方がいらっしゃいますので、その方が入っていらっしゃる海王丸パーク関連施設連絡会や所有者の県の方々と調整を図りながら、民間事業者の進出を誘致していきたいと考えております。情報提供施設のくらしの情報館についても今ほどの説明と重なる部分があります。そういった施設の中で情報提供をしていくのが一番いい形ではないかと考えております。

続きまして居住機能です。海王町の新湊かまぼこさんの裏の空き地ですが、現在はイベントなどの臨時の駐車場として利用されているのみです。今後は集合住宅や高齢者の住宅については、住まい街づくり計画といったものの策定の件の中で検討していきたいと市の方向として出ております。

続きまして、景観モデル地区の選定です。こちらにも書いてありますとおり、地区計画を策定して指導しているということで、今後も指導を続けるということになっておりますが、港付近の景観ということで、港全体の計画・色彩計画との関連性をもって検討する必要があるのではないかと考えております。

続きまして、レクリエーション施設です。緑地公園ということで、こちらのみなとまちづくり方策には、赤で囲まれた部分で緑地公園の整備ということが計画されているわけですが、現在のところ整備の予定はございません。

続きまして、海王丸パークの機能充実ということで、開園当初より財団の方で移動海洋教室やカッター、セイリング教室などの事業が展開されています。今後とも市としていろいろなイベントの開催や、財団や県の方々と共ににぎわいの充実に努めてまいりたいと思います。

遊休地ということで、いろいろな空き地がありますが、土地の所有者や管理されている団体の方々、住民の方々の意見も含めながら遊休地の利活用に取り組んでいきたと考えておりますが、予定・計画があるということではありません。次に海竜町についてです。まず元気の森公園です。元気の森公園につきましては、今年度新しい遊具を設置しております。こちらはパークゴルフ場のような雰囲気にとられることもありますが、あくまでパークゴルフもできる公園です。子供からお年寄りまで楽しく利用されているのはみなさんもお存知のとおりだと思いますので、引き続き県の方で整備を進めていかれるということです。

次に海を使った取組ということで、方策にはトライアスロンという形で載っているかと思えます。現在海王丸パークを中心にトライアスロン大会が県のトライアスロン協会の方で開催されているところですが、担当ではないのですが、市の窓口ということで、新湊大橋ができたときに東側の埋立地も利用しながらトライアスロンを開催していく可能性があるのかないのかということを含めまして、協会に申し入れしているところです。今後トライアスロン協会の方で検討されて回答がくるものと考えております。

続きまして、研究機関との連携機能です。クリーンエネルギーの研究活用施設と出ておりますが、現在神通川左岸の浄化センターで処理された下水処理水の熱エネルギーを利用しまして、海竜スポーツランドの温度を上げるのに有効利用しています。今後神通川左岸下水道の処理水と熱源については、新湊大橋の消雪に活用されていくということで伺っております。

続きましてリサイクル研究施設です。そういった研究施設の設置には至っておりませんが、市としてバイオマスタウン構想策定委員会を設置して、射水市バイオマスタウン構想を策定しました。みなさまのお手元に簡単なパンフレットをお配りしております。地球温暖化の防止や新たな産業の創出や雇用の創出等々効果が期待できるということです。後ほど帰られてからでも内容をご確認ください。

続きまして、海洋水産技術研究の活用施設です。近畿大学水産研究所をはじめ、堀岡養殖漁業さんもありますが、今年はなんといってもとらふぐがブランド化の推進といったことではなかったかと思えます。12月からセット販売などもされていました。今後とも新たなブランド化の推進を図っていきたいということです。

続きまして、交通機能ですが、新湊大橋の東側のエレベーターの取付、埠頭付近の整備推進です。海竜町に夕日と海・新湊大橋を一望できるような眺望点の整備が掲げられているわけですが、元気の森公園で一番上から見た景色がまさしく眺望点ということで、現在のところ整備済となります。

続きまして、海竜町の居住機能です。戸建住宅と別荘という形ですが、ちょうど堀岡小学校の東側にあります土地区画整理事業として現在整備しております、本年8月ごろから販売する予定です。

続きまして、景観モデル地区の選定です。先ほどの土地区画整理事業の付近に良好な街並み及び景観の形成を図るために、地区計画の策定を行っているのですが、計画の中に無電柱化といったことがあったのですが、販売価格等の兼ね合いもありまして行えなかったということであります。

海竜町全体の話なのですが、コミュニティ活動の輪の提供ということで、文章には環境教育と一体となった緑化活動や清掃活動を全体でしようという取り組みということで書いてあります。アダプトプログラムという事業を主として推進しておりますし、現在環境省で行っている「こどもエコクラブ事業」の普及を推進していくこととしています。こどもエコクラブ活動というのは、自分たちの周りで身近な環境活動を自由に取り組んでいくという、環境省が支援している事業です。

遊休地の利用ですが、海竜町についてはイベントの開催もありませんし、現在のところはなかなか難しい面が多々あるかと思いますが、今後とも遊休地の利用については検討していきたいというところです。

続きましては、市街地についてです。内川の景観整備があがっていますが、現在山王町公園内に多目的トイレを設置いたしました。また中新橋の架け替え工事も行っております。今後の予定ですが、茂八橋・桜橋の架け替え・整備の検討をしていることをお知らせしておきます。

続きまして、観光モデルコースの設定です。海王丸をはじめ内川の周遊型観光モデルコースを設定して観光協会や市のHP、いろいろなところで情報発信しています。今後も新たに魅力的な観光モデルコースの発掘に努めて観光パンフレット等でも広く情報発信していくことにしています。

倉庫をリニューアルした商業施設などですが、イメージとしては内川沿いの古民家を活用していくなどです。市としての回答となるのですが、ひとつは地域の商店など民間活力によるチャレンジショップなどの導入の推進、二番目は風土に根ざした地域固有のものであり街並みや建築様式について勉強会を開催していきます。三番目に寄席の開催について大人数を収容でき、トイレ・防火設備のある寺院について検討していきたいということです。

次に曳山展示施設です。今年は三日曾根自治会が作った曳山格納施設に、観覧可能な観光施設としての位置づけから市の補助金を交付しています。今後も同じような考えに基づき、新たに建設する曳山見学の可能な格納施設については観覧可能な観光施設として補助金を交付していきたいと考えています。

川の駅については、今月末に完成で、オープンが4月26日となっています。射水ブランドの情報発信を図るため、指定管理者と連携してにぎわいを創出していくことになっています。

ここからはサポート機能ですが、観光面と維持管理面についてです。まず観光面は、観光ボランティア協議会を支援しております。今後も観光関係者や研修会を開催するなど、市民が一体となった「おもてなしの心」を養成する事業を実施していきたいと考えています。また維持管理面については、先ほども申しましたとおりアダプトプログラムと参加者の増加を推進するなど活動の拡大を図るきれいなまちづくりといった形で活動の推進を図っていききたいと思います。連絡機能についてです。川の駅の北側に遊覧船乗り場の整備を進めております。乗船につきましては、(株)新湊観光船と係留している漁船所有者との調整を促進していきたいと考えております。

続きまして連絡機能の二つ目、レンタサイクルについてです。来年度の平成21年度にレンタサイクルの補助金を創設しまして、川の駅と海王丸パークを拠点としたレンタサイクル事業の実施に向けた検討を予定しています。

続きまして、遊歩道と案内板の整備です。案内板に関しては前回にもお話ししましたとおり、現在設置中であります。遊歩道については中の橋から神楽橋間の北側を整備しておりまして、来年度も未整備区間の整備に取り組んでいきたいと考えております。

最後に移動手段についてですが、市街地の駐車場です。委員の方々から駐車場という意見をいろいろ聞いていますが、川の駅の整備に合わせて立町地内の市有地・山王町の公園内の駐車場を整備中です。その事業は今年度の整備ということで、来年度の整備予定はありません。

それと一方通行の見直しということで補足にありますが、立町通りと新町商店街についてです。道が狭いので、広げられて且つ歩道の確保が可能と判断される場合は、一方通行は解除される場合もあります。これは警察に確認したことであります。

万葉線の延伸調査ですが、万葉線を海王丸パークや新湊大橋へなど、いろいろな考え方がありますが、延伸ということで調査すればどうかということですが、市の交通機関は万葉線だけではなく、いろいろな民間運営のバスやコミュニティバスもあります。市の交通機関のひとつとして全体計画の中で検討していく

べきだと考えております。

共通企画券、例えば万葉線・帆船海王丸・如意の渡し等を組み合わせたフリーきっぷというものを使って、港町にどんどん人を入れていけばいいのではないかという提案ですが、こちらはすでに万葉線さんが「ドラえもん1日フリーきっぷ」等を販売されています。

公共交通利便性の向上が最後になるのですが、現在16路線で運行しているわけですが、昨年5月にも利便性の向上ということで、路線の見直しなどをコミュニティバスについて行っております。今年の5月にも新湊地区ではないのですが、大島・大門地区でコミュニティバスの利便性の向上をめざした路線の変更等を計画しているところです。

以上が本年度の第一段階の進捗状況すべてと今後の取り組み予定を取りまとめたものをみなさまにお知らせいたしました。ありがとうございました。

委員長：内川と万葉線の公共交通の問題も入れながら「新湊みなとまちづくり」、海王町・海竜町のまちづくりの現状をご説明いただきました。今の説明でご質問がありましたらお願いします。

委員：4月26日に川の駅がオープンするという案内でしたが、最初は見ようとする人で内川がかなり混雑すると思われます。駐車場の説明もありましたが、例えば東側のマリーナのあたりからも内川にかなり入ってくるのではないかという気がします。内川が非常に混雑したときの対応などを考えておられますか。私ども学校では授業などで時々内川を通りますが、平生は空いています。こういった時にはかなり人が入ってくると思われます。なにか安全対策などを考えておられますか。

事務局：都市計画課です。川の駅を担当しています。今言われたことについては、まったく想定していませんでした。基本的に車でこられる方、観光船に乗ってこられる方、レンタサイクルを利用される方はいらっしゃると思っはいましたが、プレジャーボートがどんどん入ってくるとことは想定にありませんでした。

委員：内川は川の中から見ていろいろ景観を楽しむということがあると思いますので、かなり人が増えるのではないかという気がします。せっかく川の駅ができたということで、ボートに乗って内川に入ってくるとなると、やはり停める場所の配慮ですとか、船が混んだときなど、ゴールデンウィーク中は総

帆展帆ありますから、少し心配に思いました。

委員長　：　道路交通とともに水上交通も検討課題でしょうね。

事務局　：　私どもは混雑を想定していなかったので確かにおっしゃったとおりなのですが、実際は漁港区域になりますので、兩岸にはびっしりと漁船が係留しています。今の川の駅になる前から係留しているので、それを1隻動かすにはいろいろな調整があったと思われます。そういった意味で、プレジャーボートが入ってきても近くの場所を確保するのはかなり困難だという気がしますし、漁港区域のため、利用者との関係もありますから、シャットアウトしなければならないという思いもしますので、議論はしてみたいと思います。いろいろな観点があって逆に勉強になりました。

委員　：　今おっしゃったように、川の駅がどのようなものかと考えてみると、道の駅というのは車を対象としているように、川の駅は船を対象としているのに、船を係留できないのでは意味がないのではないですか。車で来る人や、歩いてくる人を対象とした駅ではないと思います。

事務局　：　委員長、私どもでは川の駅の前は観光船の発着場という位置づけになっておりまして、一般のプレジャーボートの発着場という考えは全くありません。観光船がちょうど入れるだけのスペースで、乗降しかできない状況になっています。他の人がとめても、ガードレールを越えて川の駅に入ることになるので、元々観光船だけと考えておりました。今現在、川の駅の前に漁船が二隻ほど停まっていると思いますが、それは中新橋の工事のためでして、中新橋が上部工の工事が終わればそちらへ移動していただいて、観光船の発着場として利用できることになります。観光船がいないときにプレジャーボートが入ってきて停めるということは想定されますので、今後考えていかねばならないと思います。漁港区域は本来、プレジャーボートは入ってきてはいけない場所のはずです。

委員長　：　ずっと係留するという他に、ボートで訪れるということは賑わいをもたらすということですから、川の駅にふさわしいものは念頭に置かなければならないと思います。これは環水公園と同じです。環水公園には漁船は係留しておらず、あちらこちらから来たボートで富山市を訪問するというのがまさに目的となっているので、こちらでも訪れることを阻まないほうがいいです。

よね。せっかくの川の駅ですから。水上交通を念頭において、都市計画課の検討課題ということで。今のところは、観光船が停まる場所の確保で精一杯というように見えます。昔から漁船の係留場ですから大変だと思いますが。

事務局： 大変貴重な意見をありがとうございました。

委員長： 他にございませんか。

射水市に住んでいる富山商船高等専門学校国際流通学科の学生の方が内川を調べたものを話題提供としてお願いしました。お願いします。

学生： 今日は「港湾都市のまちづくりにおける NPO がもたらす効果と今後の課題～富山県旧新湊市を事例に～」という題でお話したいと思います。よろしくお願いします。

皆さんは「みなとまちづくり」についてよくご存知だと思いますので、説明は省略して事例研究の部分から始めたいと思います。

私の研究では、稚内港・室蘭港・宇野港の3つの事例研究をしました。「みなとまちづくり」では、各港で NPO が主体となって取り組みを行っており、国や県・市などの行政は、NPO に協力・支援するという運営体制であることがわかりました。さらに NPO は「みなとまちづくり」の取り組みとしてイベントの実施を行い、これらのイベントには港と街をつなぐ工夫がされていること、体験型のイベントであったということがわかりました。

次に対象地域である旧新湊市において、「新湊みなとまちづくり」と「NPO 法人水辺のまち新湊」について聞き取り調査を行い、以下のことが明らかになりました。

まず、「新湊みなとまちづくり」を推進する行政側は、住民にまちづくりに参加してほしいという思いをもっていますが、住民の中にはまちづくりに興味がない人・まちづくりに参加したいがどうすればよいかわからない人がいるということがわかりました。これは PR の不足と人材の不足によるものであり、この2点を解決することが「新湊みなとまちづくり」の今後の課題であると私は考えました。

「NPO 法人水辺のまち新湊」の運営体制、事業内容、進行状況、行政と NPO の違い、住民の声の5点について聞き取り調査を行いました。「NPO 法人水辺のまち新湊」は射水市移住交流促進事業により、旧新湊市地域の課題でもある交流人口の増加や、全国に向けた新湊の PR といった効果をもたらしました。最後に、事例研究と聞き取り調査で明らかになったことを踏まえ、4つの提言

をしたいと思います。

まず1点目は、「住民感覚を促すシステム作り」です。聞き取り調査では旧新湊市におけるまちづくりは、住民が参画できるシステムが整っていないという意見がありました。これはまちづくりに参加する場合、誰に言えばよいのか・どこへ聞きに行けば情報が得られるのかが少しわかりにくいということが原因であると考えられます。ここで住民に対する窓口の一元化をし、この窓口は「NPO 法人水辺のまち新湊」が担当するという方法を提案します。

2点目は、「高齢者に対する観光ボランティアの募集」です。旧新湊市在住の高齢者の方の中には、時間に余裕があり、まちづくりに意欲的な人もおられると思うので、この人々を対象に募集をします。この募集は、費用・労力削減のために、ボランティアを行った人が友人を誘い、その友人がまた別の人を誘うという方法を提案したいと思います。

3点目は、リーダーを必要としている住民がいるということがわかったので、「NPO 法人水辺のまち新湊が住民のリーダーとなる」ということです。これには「NPO 法人水辺のまち新湊」のPRと、住民参画が必要であるという意思表示をする必要があると思います。以上の3点を実現するためには、「NPO 法人水辺のまち新湊」が「新湊みなとまちづくり」についての講習会・勉強会を開催すること、フリーペーパーや回覧板を使ったPRを行うこと、「NPO 法人水辺のまち新湊」のマスコットキャラクターを作り、PRを行う必要があると考えました。

スライドには書いてないのですが、5点目に、「みなと」と「まち」をつなぐイベントの開催を提案したいと思います。これは海王丸パークに訪れる観光客を、新湊の市街地に連れてくることを目的とします。現在も公共交通の充実や、案内板・遊歩道の設置によって、市街地に人を呼び込もうとしています。これらが直接効果を生み出すとは少し考えにくいと思います。そこで従来の海王丸パークのイベントが開催される日に、市街地でも関連したイベントを行うことで、観光客を呼び込むことを提案します。これを、簡単に例を挙げて説明すると、8月にある「富山新港新湊まつり」の花火大会に合わせて、市街地でまちながしのイベントを行うといったものです。花火大会は8時開始となっているので、日中に市街地で回遊してもらえるのではないのでしょうか。しかしこれを実現するためには、中心市街地でも屋台営業を行う・臨時バスを運行するなどの工夫が必要であると私は考えています。

戦後に意味合いを失った港も賑わいと取り戻そうと活動する人々の手によって、観光都市の観光資源として生まれ変わりつつあります。今後も観光資源としての港湾の役割や、その港湾を活用したみなとまちづくりの取り組みにおける

NPO の活躍に注目していきたいと思っています。以上で発表を終わります。
ありがとうございました。

委員長 : どうもありがとうございました。彼女が住民への聞き取りなどあちらこちらに動いて調査をされたというのが目に浮かびます。短時間で説明をお願いしたものですから、結論の部分だけになっておりますけれども、かなりポイントをついたところもあるのではないのでしょうか。せっかくの機会ですから、何か質問をしていただけたらと思います。

委員 : 今の説明の中で、射水のマスコットを作ったらいいのではないかというお話がありましたが、ムズムズくんが現在マスコットになっておりまして、「アイバック」という射水市ボランティアグループでこういうものを手作業で作っております。費用は材料費で100円かかります。それに補助をもらっているのですが、いつもこれを作るための補助をいただけないものですから、川の駅とか道の駅において、次を作るための材料費として一つ200円ほどで売ったらどうかと思います。今日みなさんにつけていただけるのなら、ひとつずつプレゼントしたいと思い、十数個お持ちしました。何かの機会で宣伝につけていただけたらうれしいです。もしよろしければお願いします。

委員長 : これは水の形なのですか？

委員 : 水です。

委員長 : この王冠をかぶって、目が大きいのは、何を象徴しているのですか？魚とかですか？

事務局 : まずは射水の「水」の形をイメージして作られたそうです。「水の精」のイメージになっていまして、頭にかぶっている王冠は、射水の5つの旧地区を表していると聞いております。

委員 : これは「元気」のポーズで、あと3種類あります。よろしければ今日みなさんにプレゼントいたしますので。

委員長 : どうもありがとうございます。では、学生さんの今の説明で、なにかご意見があればお願いします。

「NPO 水辺のまち新湊」の理事長にも聞き取りされたのですよね。
報告は渡されたのですか？

学生： はい。論文をお渡ししました。

委員長： かなり厳しく、もう少しちゃんとやってほしいと私どもがなかなか言えないことを書かれているものですから。

射水市にお住まいですから、ぜひ NPO の川の駅を助けてやってください。

では他にありませんね。ありがとうございました。

富山商船高専で以前は航海学科・機関学科しかなかった時代には、だんだんと射水（新湊）市内の学生は、ほとんどいなくなっていました。しかし、工学科・国際流通学科ができて、かなりの学生が通うようになりました。今のような形で、地元のいろいろな研究をやり始めているものですから、先生方も全国から集まっているのですけど、地元を目を向けるようなきっかけにもなっていると思いますから、おおいに情報を仕入れていただきたいと思います。

今回初めての試みで、富山商船高専の学生の方に来ていただきました。

いろいろ考えるきっかけになるのですが、私自身、彼女の話聞いて、内川の場合は「NPO 法人水辺のまち」が賑わい作りの仕掛け人として形の上ではできています。いろいろ問題はあるかもしれませんが。しかし海王丸パークは、国・県・市・民間、その他住宅や商店も入っていますし、いろいろな組織が入っているので、あそこそですね、「NPO 海王丸パークにぎわいづくり」のようなものを早く作らなければ、という感じがしました。そこで、この間のいろいろな話を聞くと、補助金の申請も独自にどんどんやって賑わい作りを行い、行政の下請けではなく、行政を引っ張っていく NPO が必要ではないかと、彼女の話聞いて思いました。以前、帆船海王丸が誘致されたとき、私や委員がボランティアとして積極的にやりました。それはまちづくりを目指してやっていたのですが、いろいろ限界があって今日のようになっているのですけれども、「NPO 水辺のまち新湊」が内川の賑わい作りを仕掛けるという位置にあるのと同じように、海王丸パークにも NPO が必要ではないかと私は思っているのですけどね。今の報告にからんでアイデアがあれば発言していただきたいですし、私がやるという人がいれば NPO はどんどんできるわけですから、人材を探すとかが仕掛けるといったことが重要ではないかと思います。今の賑わいづくり仕掛け人のことについて少しお話ししました。

あと 15 分くらいあるのですが、話題提供をひとつ私の方からさせていただきたいと思います。今回の資料として 1 枚入れておきました。これはこの前の

戦略会議で、産業経済部長から海王町にアウトレット誘致のモーションをかけているということがありましたね。そのあと富山商船高専で部長が講演をされて、もっと深い内容を私たちはお聞きしました。私はその戦略的な動きはものすごくいいことだと思いました。偶然ですがアウトレットと港との関係を私自身も同時平行して調べていたものですから、海王丸パークに結びつかなかったのです。それで思ったのですが、私の知識と部長が言われたことをミックスして、こういうアウトレットならば可能性があるのではないかと考えたものが資料に書いてあります。みなさんがどういうふうにお感じなのか、こうした方がいいのではないということを意見交換してもらえたらと思います。この前の部長の報告の続きです。

まず私が考えましたのが、部長の方から日本で代表的な3つのアウトレットを展開している母体のひとつの意見として、300万人ぐらいの需要というのが頭から離れなかったのですが、これは一つの会社がものすごく儲かる方向の話であって、アウトレットというのは実際どういうものかということなのです。この地区の場合は、やった方が成功率は高いのではないかとということです。

つまりアウトレットは80年代に在庫の掃きだしやモデルチェンジがどんどん行われて、1年経つとすぐ古くなってしまいうので、そういった商品の販売拠点としてアメリカで興ったものなのです。要するに「A級ブランド」ではなく、「Aブランド」販売戦略で市街地に作って成功したということで、急に注目されているのですが、私は新湊というのはもともとこれをやっているのではないかと思います。それで宮城県の方を私自身で調べたのですが、宮城県自体は人口220万人で仙台市に集中しているわけですが、実はここに3つのアウトレットモールがあるのです。資料の注1のところに120店舗・80店舗とあるのが、三井・三菱系のものです。これは比較的新しいのです。他で成功すると間違いなくやってくるのが大手です。しかしその前に地元での地道な活動による成功例があるのです。それを吸収する形で、大手のアウトレットモールが進出して競争しているわけです。それが「仙台ヒルサイドアウトレット」で錦エステート株式会社が2002年から経営しています。要するに220万人の仙台市に3社が並列して存在しているわけです。そういうのを見ると、モーションをかけるときは、地元と大手の3社に競争させること、特に大手には競争させ並行して誘致をしないと、地元が食われるという感じがしています。富山県の場合は100万人プラス北陸道1時間圏内で150万人、合計250万人で、まだアウトレットモールがないわけですから、需要人口としては仙台に比べれば、全く競争がないので、成功する確率が高いのではないかと考えています。それから、この「錦エステート株式会社」というのは不動産会社なのです。まちづく

りで苦労してやってきた個人の業者です。まちづくりの核としてアウトレットモールに35店舗を入れて、それが仙台市内からお客さんをお呼びすることになりました。地元のことを知り尽くした人が、ユニークな規模の店舗・商品を集めたという積み重ねの中で成功しているという点があります。少し見方を変えれば、この地区では「かまぼこ・昆布・ぶり・海産物」という射水ブランドをやっていて、かなり売れているわけですから、少し工夫すれば、アンテナショップをアウトレットにもりこめると思います。さらに、富山ならではのユニークな工場の製品が、富山新港の背後地に貼りついているわけです。私もよく見学しているのですが、銅器での美術作品は立山の工場を拠点にしながら全国でかなりのシェアを占めているところもあります。木材・銅器・アルミの製品、あるいはマスコミでよく採り上げられる「光岡自動車」や「富山の葉」です。このようなユニークな商品をかき集めて展示するアンテナショップだけでも、私が仙台で見てきたものを優に超えてしまうという感じがします。そういうことを念頭におくと、外への働きかけと同時に、地元の素晴らしさの見直しと商工会を中心としたアンテナショップ作りというものが重要ではないかと考えます。

二番目に、ここならではの問題としては、環日本海市場、それと韓国・中国・ロシアからの資本導入です。これは他が真似できないことをここはやっていていると思っています。それは何かというと、商業ルートとして、原木や木材製品、中古自動車の輸出入で、市場ルートがなんとなくできてしまっているわけです。しかも全国に繋がっていますし、先日、富山商船の先生の調査では、新湊のパキスタン人がアラブ首長国連邦のドバイ、アフリカを視野に入れた中古自動車の販売拠点に繋がっているようです。そういうことがわかってくると、環日本海においてはこの市場ルートが、国内だけではなく結構広がっているということに気付くわけです。

そういう市場を根絶やしにすることは、アウトレットの展開においては損であると思っています。そうすると、いろいろな種類の自動車部品や、木材や合板・アルミを使った建築材料、そういうものを環日本海域に居住する住民に合うような形で、伏木富山港を中心に展開をする。ただしそのとき重要なのは、横浜や神戸とは違って、こういう小さな港において負荷をかけないようにするためには、関税や入管などのもろもろの手続きをワンストップサービスにして、国土交通省の出先機関や県の港湾課が中心になってやらないと、サービスはできないと思います。つまり環日本海域の小さな貿易商人の便宜を図るノウハウが必要だというのが第一点です。それからもうひとつは、私がこの間モンゴルに行ってわかったのですが、モンゴルで環日本海の国際観光振興会議というのがありまして、富山が音頭をとって90年代からやっている北東アジア経済交流

EXPO が結構浸透しているのです。ならば常設展示場をアウトレットモールに関連して設けてもいいのではないかと思います。ただしこれは、ここの製品を売るだけではだめで、ここの EXPO ではロシア・中国・韓国・北朝鮮・モンゴルといった国の製品を、日本人に合うような形で転換する工場も必要です。自動車で言えば、右ハンドルを左ハンドルに変える工場といったかんじですね。これも結構、向こうとしては資本導入に乗って来ると思います。日本の素晴らしさというのは、「安全・安心・信頼」の商品があるということです。これが高いからだめだということではないのです。とにかくほっとする商品になっているというのが二点目です。

三点目においては、中国の東北三省の黒龍江省・吉林省・遼寧省と韓国の東海岸、ロシアの沿海地方、これは北朝鮮も含まれますけども、北京・モスクワ・平壤・ソウルから見ると、日本海側みたいなものです。要するに、開発政策から遅れた地区です。しかしここの地区は1億人以上の人が住んでいますので、1億人の需要があるということを、アウトレット展開をするときには、完全に考えなければならないと思っています。首都圏との開きがこの地域にはあるものですから、富山県がやっている経済交流 EXPO にかたまるわけです。反中央とまではいかないけれども、地域政策としてかたまりやすい点があります。この地区は格差是正政策も中央政策が展開しているものですから、結びつきやすいと思っております。こういったところの地方銀行の展開もありますので、あるいは県が大連やいろいろなところに事務所をもっているし、伏木海陸もロシアや大連との関係が強まっていますから、こういう投資環境というのもアウトレットモールの展開においては、考慮に入れなければならない問題かもしれません。

何よりも一番後に書いてあるのは、これらの地域は日本の商社のように完成された姿ではないです。過渡的な姿であって、極端に言えば、個人が向こうのお金を200万なら200万ポケットに入れて、伏木での買い物客を見ると、それで現金でたくさん買っていく。そして向こうで20%のマージンをつけて売ります。つまり、買ったものを船で運ぶというのは便利なのです。こういう点を考えると、伏木海陸が苦勞してやっているウラジオストク航路に注目して、そこのお客さんがこのアウトレットに流れるような方策を、伏木海陸と相談しながらルート作りをするのも重要ではないかと思います。

そのほかに、今試験的に行われ始めている「日本海横断航路フェリー」というのがあります。これは新潟・東海岸の東草（ソクチョ）、それから中国の東北三省と北朝鮮とロシアが接する図們江（トモンコウ）に寄って、ウラジオストクへ行って新潟にまた来ます。これは富山新港には寄らないのですが、この状況

を見ながら、伏木海陸が動かしているものとの関係も考えながら、アウトレットができる段階においては、ここに寄って行くということも考えられるだろうと思います。それから裏のページで、アウトレットの日本における展開で、三井も三菱も一番苦勞しているのが何かというと、「ほっとする空間」をどのようにアウトレット及びその近辺でつくっていくかということです。地元のアウトレットの場合は、地元でそういうものがあるという前提でいっているわけですから、金がかからないということです。しかし全国展開をする方は、そういった空間を建物の中に作るか、外との関係でやっていくのかということで苦勞をするのですが、富山新港を考えてみたら、「内川ミュージアムタウン」を発表したばかりですから、別に新港に造る必要はなく、あそこからボートや車で内川に誘って、ほっとする情緒豊かな内川を眺めて、それからおいしいお寿司を食べて、船でロシア・中国・韓国に帰るということも対岸を考えると、非常にすばらしいという感じがいたします。

この前の部長のアウトレットのことで説明したのを、私自身はここに焦点がなく、勝手に別の人たちと調べていたものを少しここに応用して、そうだここにあるんじゃないかと思って結びつけて展開をしてみたのですが、部長の意に反しているかもわかりませんが、戦略的な会議でこそ言うべきことかなと思って言わせていただきました。なにか反論があればお願いしたいのですが。

事務局： どうもありがとうございました。確かに私たちは大手の三菱系や三井系だけに絞ってやっていました。その二つに絞ったのは、日本海側・北陸に全くないという観点から入りました。そういった意味でそういう展開をしていたわけですが、確かに委員長のおっしゃるように視点を変えれば、こんな風にもやっていけますし、本当に目からうろこと言いますか、これを見てまだ展開の仕方があるかなという気がしてきました。実は正直言って、これはかなりハードルが高いなという思いでいたのですが、違ったところから攻めていけば、また何か見えてくるかなという気がしております。早速また段取りをさせていろいろ動きたいと思っております。ありがとうございました。

委員長： 他に異議のある方、何かあればお願いいたします。

事務局： その時はまたお願いいたします。また習いにいきますのでお願いいたします。